



編集・発行
県南教育事務所



「ダイナミック・イクイリブリアム」

県南教育事務所長 板橋竜男

だいぶ前の話になるが、NHKで「最後の講義」という番組を行っていた。その中で、生物学者の福岡伸一さんが講義を行った内容が印象的であった。

「1年前の私と今の私はまったくの別人です。中身がすべて入れ替わっているのです。」

えっ？何を言っているのか？ 理由はこうである。
「私たちの体と食べ物を、よく車体を動かすエネルギーに例えることができますが、それは違います。ガソリンは燃焼して車体を動かすエネルギーになるだけですが、私たちが食べたり、動いたりすることは、エネルギーだけでなく、古い細胞が壊され、排出し、細胞一つ一つが新しく生まれて、髪の毛一本、眼球にいたるまで、だいたい1年くらいで入れ替わります。これを動的平衡（ダイナミック・イクイリブリアム）と言い……」

かかとなど、かなり堅い皮膚の部分なら、かかと落としなど行って入れ替わっている実感はあったが……。私自身、かなり体内に脂肪が蓄積されてきたが、この脂肪も1年で入れ替わっていたのである。

たぶん、DNAとか高校の生物などで勉強したのだろうが、初めてわかった気がした。

だからこそ、日々食べること（食育）は大事であり、体をつくるための運動も必要であり、もちろん脳も入れ替わっているのだから、勉強や考えることだって重要なのである。

今、行っている行動が、1年後の自分をつくっていく。

今、たくさんの学校を訪問させてもらっている。どの学校も、子どもたちが元気に勉強や運動を行い、そこをコーディネートしている先生方の普段からの取り組み、また、先生方の教育活動を支える職員や地域の方々の姿が見え、これが昔から変わらない学校のダイナミック・イクイリブリアムなのかなと思う。

しかし、わずか半日程度の訪問ではよくわからないが、活発な教育活動の中には、悩んでいる先生方、そして困っている子どもたちが少なからずいるのだろう。

でもみんな未来に希望を失うことなくがんばってほしい。心や思いには細胞がないかもしれないが、今、生きていることが本当に苦しくても、細胞レベルでは1年後、そこには別の自分がいるはずなのである。

『自己の客観視』を ～「学校事故防止対策研究協議会」より

「不祥事根絶」、「学校事故の絶無」のためには、いかに自己を客観視できるかが大切なポイントです。皆さんは、「自分ならどうするか」、「自分のやり方は正しいのか」、「自分はどのように見られているのか」などの視点を意識し、折に触れ『自己の客観視』をしているでしょうか。（「信頼される学校づくりを職場の力で」より）

今年度の学校事故防止対策研究協議会（5/21）での講義等においても、この言葉を繰り返し耳にし、参加された先生方は何度も「自己の客観視」をすることとなりました。この日の研究協議では、「不適切な指導」に視点を当て、ロールプレイング、ファシリテーショングラフィックの手法を用いて協議を行いました。「不適切な指導」を行った側、受けた側、それぞれの立場に立って考えることにより、参加された先生方は、自分事として捉えるとともに、改めて「言葉の重み」も感じられたようです。

各学校等においても、計画的・定期的開催される服

務倫理委員会での様々な事例研修等を通し、当事者として、また、同僚として考える場の設定を行っていただければと思います。国語教師であった故大村はま先生は「最初に頭に浮かんだことばは、捨てます。」との言葉を残しています。子どもに対して厳しく指導する場面であっても、言葉を選び、投げかけることができなければならないと感じました。

不祥事を根絶するために、「風通しの良い開かれた職場を！」と言われますが、その職場をつくり上げるのは教職員の皆さん一人一人です。コミュニケーションを大切に、たくさんの「笑い声」や「笑顔」のあふれる職員室から、子どもたちの待つ教室へ向かいたいですね。



グループ協議の様子

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

「道徳教育の充実と 教育相談体制の整備」

本年度より、小・中学校で「特別の教科 道徳」が全面实施となりました。学校の教育活動全体で道徳教育を行っていくために、各学校では「全体計画」と「別業」が作成され、校長先生のリーダーシップの下、「考え、議論する道徳」を実践しているところです。

7月2日(火)には「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会が中学校教員を中心に実施され、先生方が道徳的心情や実践力を育むための発問や学習方法について真剣に学ぶ姿が見られました。

また、教育相談に関しましては、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制の整備に努めているところです。不登校やいじめなど生徒指導上の課題の解消にスクールカウンセラーの役割はとても大きいものがあります。今年度も学校とスクールカウンセラーが連携を図りながら、域内の児童生徒の心の安定と成長を支援していきたいと考えています。また、スクールソーシャルワーカーの訪問件数も年々増えてきており、関係機関と連携を図った児童生徒のよりよい生活環境の構築に努めています。個別のケースへの対応だけでなく、校内研修などの際にもご活用いただきたいと思います。

「健やかな体の育成」

スポーツ庁では、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育(以降、オリ・パラ教育)を推進しています。

このオリ・パラ教育には、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」があり、これらの教育により、「社会の課題の発見や解決に向けて、他者と協働しつつ、主体的に取り組む態度や多様性の尊重、並びに公德心の育成・向上を図る」ことが期待されています。

小学校では、来年度から、中学校では再来年度から、新学習指導要領が完全実施となります。既に、新学習指導要領による教育課程編成について見通しをもち、準備していることと思いますが、ぜひ、オリ・パラ教育についても取組を検討していただきたいと思います。新たなものではなく、今まで実施している教育活動の中で、関連付けられるものがあるのではないのでしょうか。「福島県オリ・パラ教育推進事業成果報告冊子」等をご覧いただくと、具体的にイメージができると思います。

東京オリンピック・パラリンピックが終わってからも、持続可能なオリ・パラ教育。体育科だけではなく、総合的な学習の時間、道徳科等との関連を図り、横断的・総合的な学習を展開していただきたいと思います。

「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて

5月29日(水)に第1回学力向上担当者等研修会を実施しました。研修前半の講義「域内の学力向上に向けて」では、県南教育事務所指導主事より、県南域内の児童生徒の学力の状況を踏まえた上で、県教育委員会や県南教育事務所の施策について、各学校での取組の改善のヒントとして生かしていただけるような視点から説明させていただきました。特に、今年度から実施された「ふくしま学力調査」について、児童生徒個人に対する結果データ活用の仕方や教員の指導改善のための活用の仕方などについて時間を割いて説明いたしました。

また、研修後半では、『「主体的・対話的で深い学び」の実現の手立て』と題してグループ協議を行いました。その考え方や実現のための具体的手立てなどについて、いくつかのいいイメージを共有することができました。「授業スタンダード」の中にも示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」の内容とも併せて、各学校での実効性のある取組に生かしていただきたいと思えます。新学習指導要領の完全実施は、小学校が令和2年度、中学校が令和3年度と目前に迫っています。そのねらいとする教育が県南で自信を持って展開されていくことを望みます。

「特別支援教育の推進」

来年度、再来年度から完全実施となる小・中学校の新学習指導要領の「総則 第4 児童の発達の支援」に特別な配慮を必要とする児童生徒への指導に関する内容が盛り込まれ、特別支援教育の重要性の高まりが伺えます。そこで、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校における指導支援の充実に向けて、県南教育事務所も要請訪問、特別支援学級等訪問などを通して支援していきます。また、特別な配慮の必要な児童生徒が、段階的・継続的に効果的な支援を受け、生きる力を育めるように、個別の支援計画の作成・活用についても継続して支援していきます。

【特別支援学校のセンター的機能の活用】

特別支援学校では、幼稚園、小・中学校、高等学校、各市町村教育委員会等における相談・研修支援を行っています。各園、学校のニーズに応じた特別支援教育の相談支援や校内研修への支援などを行います。活用にあたっては県南教育事務所までお問い合わせください。また、特別支援学校の地域支援センターに、教育支援アドバイザーが配置されております。そちらでも相談できますので、ご活用ください。(西郷支援学校「地域支援センターにしの郷」相談専用電話：080-7182-0863(直通)9:00~16:00)

地域と学校の連携・協働の推進

～地域人材の活用による交流と本物の体験活動の充実～

少子化や過疎化の進行により、地域における教育力の低下、家庭の孤立化等の課題や、学校を取り巻く問題が複雑化・困難化しており、学校だけでなく社会総がかりでの教育が求められています。そのためには、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要不可欠です。

そこで、今年度より県内すべての学校に「地域連携担当教職員」を配置し、地域学校協働活動が効率的に展開できるよう、組織体制の整備を進めています。

県南域内でも各学校で様々な取組を行っています、教育事務所関連事業を2つ紹介いたします。

【地域連携担当教職員等研修会】

6月10日に白河合同庁舎で研修会を実施しました。県南域内の小・中・高の教職員、全市町村の行政担当者、地域コーディネーターの皆様68名が参加し、県担当者の講義、大学教授の講演、西郷村の実践発表により、地域連携担当教職員の役割と今後の進め方について理解を深めました。グループ協議では、市町村ごとに義務系・県立の教員と行政が地域の実情に合わせ、今後の方向性も視野に入れた話し合いが行われ、とても好評でした。

県の担当者からは、「今年度は地域と学校の連携・協働についての理解を深め、体制を整える期間である。」「新しいことを行うということではなく、これまで実施したことを整理したり、見つめ直したりいきたい。」という説明がありました。

配付資料「地域と学校の連携・協働のてびき」を参考にし、各学校では地域との協働・連携を推進し、地域の人材を有効活用することで教育効果をさらに高めていくことができるよう、校内体制の構築をお願いします。

【“ひがしらかわ”輝くふる郷体験事業】

過疎・中山間地域連携事業の一環として、東白川郡内全小学校で実施しています。地域の人材を活用した体験活動を通して、地域のよさを再発見して、次代を担う人材を育成しています。今年度も、各学校で地域の皆様のご指導による体験活動を実施しています。「地域の人材活用」「本物の体験活動」「地域の方々との交流」などにより、郷土を愛する心を育むとともに、地域人材の知恵に学びながら、人と人、人と地域の絆を大切にす豊かで優しい心を育成していきます。



< 棚倉町立社川小学校の稲作体験（田植え） >

小学校紹介

『地域の宝』小田川っ子

白河市立小田川小学校

本校では、開かれた学校を目指し、地域の教育資源を活用しながら地域の方々の協力のもと教育活動を実践しています。その中から、主な活動を紹介します。

3年生は地域に伝わる「安珍歌念仏踊」をテーマにし、白河根田安珍歌念仏踊保存会の方々に「安珍・清姫」にまつわる話や念仏踊を実際に教えていただき、地域の伝統芸能に触れる機会にしています。5年生は学習発表会での和太鼓の指導、6年生は戊辰戦争で戦死した藩士を供養するお寺の住職さんからの説明、1年生は昔遊びの指導などを行っています。さらに、全校生が実際に臼と杵を使って餅をつく「ひな祭り餅つき会」を行います。今年で42回を数え、保護者の中には小学生の時に体験した方もおり、伝統行事となっています。

児童は自分たちも地域に貢献しようと学区内交通安全鼓笛パレードを行い、交通事故防止を呼びかけています。子どもたちを「地域の宝」として、いつも応援してくれる地域の方々の温かさを感じる学校です。



「かがやく目 あふれる笑顔 ひかる汗」

塙町立塙小学校

平成30年4月に常豊小学校と統合し、新たな歴史を刻み始めた塙小学校。298名の子ども達は、「敬・愛・信」の3つの徳を磨きつつ、毎日、明るく楽しい学校生活を送っています。

「かがやく目」・・・学びのスタンダード推進事業のスタンダード校としての取組が3年目となりました。授業に向かう子ども達の「やる気・本気・集中」度に磨きがかかっています。

「あふれる笑顔」・・・他者との関わりを大切にしています。「あいさつ日本一」が合い言葉です。元気に自信をもって、自己表現できるようになってきています。

「ひかる汗」・・・H29から2年連続「ふくしまっ子元気大賞」を受賞しました。本校の伝統的な取組である長なわ跳びは、各学級の団結力の向上にも功を奏しています。今年度も目標に向かって、よいスタートを切りました。地域と学校が協力し合い、子ども達の夢の実現に取り組んでいます。チーム塙小は、前進を続けています。



新任の先生方から



「縁」

白河市立信夫第二小学校
校長 長田 修一郎

信夫二小校区の地域は、PTA奉仕作業に歴代PTA会長が現在のPTAと一緒に除草作業を手伝ってくださいます。小規模校である本校にとってはとてもありがたいことです。

先日、その奉仕作業が終わり、お礼を申し上げようとした時に、「うちの親父、校長先生のお父さんと同じ会社で働いてたんだよ。他にも知り合いが結構いるよ。」と言われました。聞いてみると、私自身も小学生の時にお世話にもなっていることがわかり、本校に勤務できることに「縁」を感じております。



「問い続ける」

白河市立信夫第一小学校
教頭 笹山 美紀子

4月に新任教頭として信夫第一小学校に着任し、3ヶ月が経とうとしています。『子どもたちのために』という同じ思いを持った先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様に支えていただきながら、過ごしている毎日です。この思いをつないでいくことが私の役目であり、大切なことであると同時に、それがいかに難しいことであるかを、日々感じているところであります。

だからこそ、初心を忘れず、教頭としてどうしていくべきかをこれからも自分自身に問い続け、日々邁進していきたいと思っております。



「学校を大好きな場所に」

中島村立滑津小学校
教諭 酒井 萌

私は小さい頃から学校が大好きでした。「学校を子どもたちにとって大好きな場所にしたい」という想いから教師を目指すようになりました。

教師としての第一歩を踏み出してから、3ヶ月が経ちますが、子どもたちの成長の早さに日々驚いています。子どもたちの「できた！わかった！」という表情を引き出せるよう、努力していきます。

まだまだ駆け出しですが、いつか私が携わったすべての子どもたちに「学校が大好き」と思ってもらえることが私の目標です。



「峠山朝日に映えて 泉崎ゆたかに広し」

泉崎村立泉崎中学校
校長 桑原 透

校長室の窓からいつも美しい烏峠が見えています。泉崎出身ではありませんが、中学校の遠足で登った記憶があります。また隣の中学校に勤めていたこともあったので、とても親しみを感じています。そんな泉崎中に校長として赴任できたことをとても嬉しく思っています。先日、給食センターの栄養士の方から「昨日の残菜が300gでした。」とお褒めの言葉をいただきました。地域の方が多く働く給食センターからお褒めの言葉をいただいたことは大変嬉しいことです。村の一つの中学校、地域発展のため少しでも尽力していきたいと思っています。



「使命」

矢祭町立矢祭中学校
教頭 本田 栄敏

縁があって矢祭中に赴任し3ヶ月、素直で元気な子ども達と共に過ごせることをとても嬉しく思っています。また、温かな校長先生の下、それぞれの先生方が子ども達のため、自らの為すべきことに全力を尽くされている姿に学校の底力を感じ、私自身も力をもらっています。

昨今、学校教育を取り巻く環境は簡単ではなくなってきています。しかしながら、導かれたこの地で、自らの使命を日々感じ、考え、行動し、子ども達や先生方が充実した時間を過ごせる学校づくり目指し、縁の下で頑張っていきたいと思っております。



「生徒とともに」

塙町立塙中学校
教諭 佐藤 智貴

今年4月、初任者としてこれまでと違う土地や環境に不安を抱きながらも、期待に胸を膨らませ塙中学校に着任しました。あっという間に1学期が終わろうとしています。毎日、素直で元気な生徒たちとともに同じ時間を過ごすことができることに幸せを感じています。この生徒たちの無限の可能性を引き出すためにも、生徒に寄り添い、一人ひとりと向き合いながらお互いに成長していきたいと考えます。そして、私自身、感謝の気持ちを忘れず、先生方や地域の方々にご指導ご協力を頂きながら教員として研鑽を積んで参りたいと思っております。